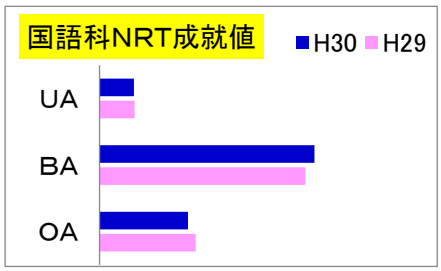
Ｈ３０塩川小学校　校長室だより　31年3月4日(月)No.13

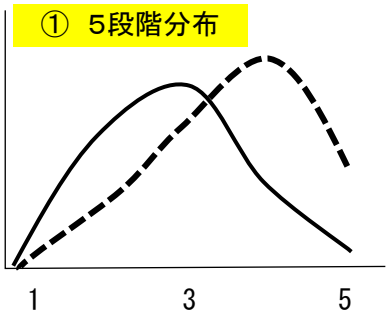
さわやか

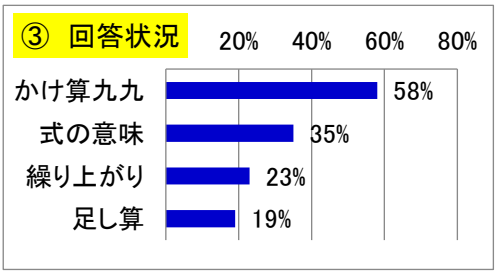
次年度につなげるまとめと計画づくり

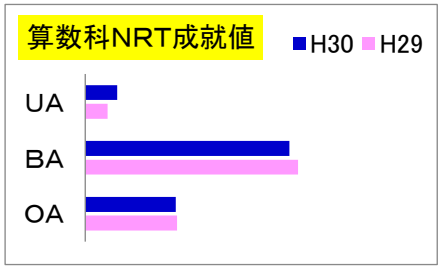
ＮＲＴの結果を生かしましょう。調査・検査は、結果を活かしてはじめて意味をもつものです。

１　全体での分析と個々の分析をしましょう。
　⑴　正答率が低かった「領域」「観点」「内容」は、何でしょうか。
　⑵　どういう点がわかっていないのか、できていないのか。それはなぜでしょうか。
　　①　５段階分布の状況　　→　個に応じた指導はできていましたか。
　　②　標準偏差（ＳＤ）の状況は。　→　一斉指導・個別指導のバランスはどうだったですか。
　　③　回答状況はどうなっているか。→　記述式はどうか。無答率の高い問題は何ですか。
　　④　知能と学力の相関状況は。　　→　ＵＡ、ＢＡ、ＯＡ状況はどうか（昨年比で）。
　⑶　ＱＵテスト（学級の様相）との相関はどうでしたか。
２　成果に導いた手立て等の根拠を明らかにし、次年度の計画づくりに生かしましょう。









２教科総合では、ＵＡは６％と前年度並みでした。しかし、教科別に見ると、国語科で、ＯＡが２ポイント減少し、算数科では、ＵＡが３ポイント増加しました。

５段階分布の状況を見ると、「①　５段階分布」の実践と点線のように、山の頂点のでき方に相違が見られるところもありました。

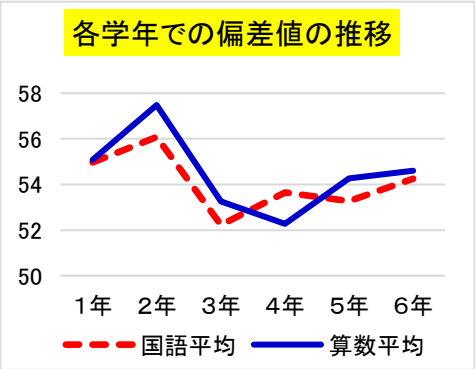
なぜ実線の分布になったのかを、授業スタイル、子どもの活動、人間関係などから分析していくことが大切です。

「③　回答状況」は、４年生の算数の問題で、つまずきがどこにあったかを分析したものです。実に興味深い資料です。文章題を解くまでにはたくさんのプロセスがあります。グラフの項目はその一部にすぎませんが、かけ算九九で間違ってる子どもが６割もいたということは驚きです。

小３ギャップの存在は前号でお話ししましたが、こうした分析を通して、次の仮説を立ててみました。

仮説「四則計算をしっかり身に付ければ、小3ギャップは解消できる。」

さらに必要になってくるのは、根気強さと丁寧さです。九九をはじめとして、四則計算は、根気強く繰り返し練習しないと定着しませんし、速さも身に付きません。また、正解していても、何の数字だかわからない雑な字では、正解に導けません。

本校の高い学力は、根気強さや丁寧さを低学年でしっかり身に付けているところにあります。また、勉強の楽しさを味わわせながら、自分（達）のことは自分（達）でできる力を育んでいるところです。

これらを意識して次年度の学力向上に生かしていきましょう。